



校長室だより

きまがせ



令和5年9月1日
野田市立木間ヶ瀬小学校
校長 松藤 有里

元気いっぱいの子どもたちの声が学校に戻ってきました。学校は、「子どもたちが主役の場所」ということ強く感じます。この休み中、大きな事故等の連絡もなく、無事に過ごせたこと、何より嬉しく思っています。この夏休みの経験が子どもたちを成長させてくれたことでしょう。

とはいえ、連日の猛暑で疲れが溜まっているのではないかと思います。来週から本格的に始まる学校生活のリズムを1日も早く取り戻せるように、この土日の過ごし方にも十分気をつけてほしいと思います。何か、心配事や気になることがありましたら、早めにご相談ください。

子どもたちにお話したことから

7月20日、夏休みに入る前の集会で子どもたちに話した内容です。



〜〜勉強って、何のためにしているのかな？と考えたことはありますか？よく、「将来のため」「自分のため」って言いますが、それはどういう意味なのか、シンプルに考えてみてください。人に何か聞かれて、「知らない。」と答えるより、「知ってるよ。」と答えることができたなら、「すごいな。」と思ってもらえるし、何事も、できないよりできた方がいい、わからないよりわかっている方がいい、そう思いませんか。どんな時でも「知っている」ということは自慢できますが、「知らない」ということは自慢にはなりません。知っていることが多ければそれだけ自分の可能性を広げることができます。知らないより知っている方がいいに決まっている。今、時間があるうちに、たくさんのかを勉強しておくことは絶対に無駄ではない、ということ。〜〜

この夏休みに、少しでも新しいことを「知る」ことができればいいなと思います。そして今日、久しぶりに集まった全校児童には、次のような話をしました。

〜〜（世界陸上ハンガリー大会で女子やり投げの北口榛花選手が、世界一になりたいという強い気持ちをもって、最後まであきらめずに今回金メダルを獲得した。また、東京オリンピックなど世界の大会でなかなか勝つことができなかった男子バスケットボールチームの選手たちが、絶対に勝ちたい、まず1勝、という強い気持ちをもって、最後まであきらめずに動き続け、他の国の人たちも驚いてニュースにするくらいの大逆転で格上のフィンランドに勝った。）〜〜

北口さんもバスケットチームの選手も、どちらも目標をしっかりと持って最後まであきらめずにプレーしたところが共通しています。そんな人たちを見ていると、心から応援したくなります。そして、世の中には、こんなに頑張っている人がいるんだ、と思うと、自分も何か自分なりに頑張らなくちゃいけないなと思います。

皆さんも、勉強のことでも運動のことでも、友達とのことでもよいので、自分のめあてを決めて、世界で活躍している人たちの頑張りにも負けないくらい、一日一日を大切に過ごしていきたいでしょう。

前期のまとめの時期となります。一人ひとりに目を向けて、小さな頑張りをお認めていくような支援を続けてまいります。

